

飛騨地域における普及活動

○地域の概要

今回は飛騨市において平成29年度から取り組んでいる「広葉樹のまちづくり」と普及活動の事例を紹介します。

○飛騨市の広葉樹のまちづくりの取り組み

飛騨市は岐阜県の最北部に立地し、森林面積は74千ha、森林率は93%と広大な森林面積を誇っています。その一方で、民有林の人工林率は29%と岐阜県の平均の45%を大きく下回っています。豪雪地である飛騨市は、立地的にスギ、ヒノキを中心



飛騨市の森林

とした建築用材の生産を目的とする林業にとつて有利とはいえません。その一方で、飛騨地域では多くの木工職人や家具職人が活動しており、広葉樹を活用するマーケットが存在していました。

このように、広大な天然林と多くの木工職人が活動する飛騨市では、「広葉樹のまちづくり」を通じて地方創生に取り組みることとなりました。しかし、広葉樹を中心とした施策は例が少なく、飛騨市としても手探りの状況であったため、飛騨地域の林業普及員が支援していくこととなりました。

また、岐阜県においては100年先の森林づくりの取り組みとして「森林配置計画」の策定を進めることとしております。

*森林配置計画とは、望ましい森林の姿への配置転換を目指した取り組みである。本計画では、適地適木、適施業を柱に地域ごとに100年後の望ましい森林の姿を示し、持続的な林業経営の実施を目指す「木材生産林」と公益的機能の維持・増進を目的とした「環境保全林」などそれぞれの区分に適した施策を展開して、持続可能な森林経営を目指すものである。

○現状及びこれまでの取り組み

1. 平成29年度の状況

平成29年度、飛騨市独自で取り組んでいる「広葉樹のまちづくり」と岐阜県全域で取り組んでいる「森

林配置計画」の2つの計画の作成に取り組みました。しかし、この2つの計画に取り組み中で、それぞれの計画の趣旨及び目的の違いに直面していました。

森林配置計画は持続可能な森林経営を目指すもので川上側が中心となる一方、広葉樹のまちづくりは広葉樹を起点とした地方創生を目指す川下側が中心の計画であり、施策的な整合を図ることが必要となっていました。また、広葉樹のまちづくりを通して地方創生を進めていく上では、計画の策定だけではなく、幅広く飛騨市の市民の方の声を入れた計画にすることが重要でした。



(株)飛騨の森でクマは踊る(第三セクター)の家具

2. 取り組み内容

飛騨市では、「森林配置計画」と「広葉樹のまちづくり」の2つの計画策定を個々で取り組むのではなく、どちらも同じ飛騨市の森林に関する計画であるため、一体的に取り組むこととしました。その際に、川上と川下の双方の意見の集約、協力した森林づくりを目指す場が必要であることから、「飛騨市森林配置・活用推進円卓会議」を設置しました。この円卓会議は、できるだけ多様な関係者等を募り、広葉樹の森林づくりのための具体的な方策の検討を進めることを目的としています。

また、広葉樹の活用を目的として、広葉樹を活用した地域づくりの先進地である北海道中川町への視察、



円卓会議

広葉樹施業のためのモデル林の設置、市民の声を聞くための全世帯アンケートの実施、一般の市民に森林づくりに興味を持ってもらう取り組みとして、飛騨市が実施する広葉樹のまちづくりセミナーなど様々な取り組みに普及指導員として参加するなど、協力しました。



広葉樹のまちづくりセミナー

3. 取り組み結果

飛騨市森林配置・活用推進円卓会議を市が設置したことにより、林業木材産業関係者のみならず、多様な方が集まり、飛騨市の今後の森づくりに関することを話し合う機会を

作ることができました。また、会議の中ではそれぞれの感じていることや問題意識を共有することになり、関係者が一丸となって、飛騨市の森づくりについて話し合う場となりました。

また、飛騨市の市民を対象として市が実施した全世帯アンケートにより、普段は聞くことができない市民の生の声を聞くことができました。

○今後取り組みべき内容

1. 具体的手法又は検討方法

多様な関係者が意見を交える場として円卓会議が設置されましたが、今後は多様な関係者と意見を交わす中で飛騨市の森林づくりの方策を飛騨市及び円卓会議のメンバー等とともに議論を深めていきたいと思えます。また、その実現に向けた森林配置計画の具体的な基準の設定（平成30年度完了予定）、将来目標区分の設定と運用方針の作成についても飛騨市の取り組みを支援していきます。

広葉樹のまちづくりセミナーや飛騨市で実施した全世帯を対象としたアンケートなどを通じて市民の関心が高まってきているので、森林配置計画はそれらの声を反映したものにしたいと考えています。

2. 期待する成果

飛騨市森林整備計画が実行性を持ったマスタープランとなるように引き続き飛騨市の森林づくりを支援し、平成31年度までに飛騨市の森林配置計画が策定できるように支援します。この計画及び計画の作成を通して、これまで以上に川上と川下を結び付け、両者がともに取り組んでいける飛騨市の森林整備計画が「生きたマスタープラン」となることを期待しています。

○おわりに

飛騨市の広葉樹のまちづくり及び岐阜県で取り組んでいる森林配置計画については、これを議論し深めていく場として、円卓会議の設置に至りました。この円卓会議は、飛騨市のこれからの森林の姿と広葉樹を活用した地方創生の双方について話し合う貴重な場となりました。この円卓会議には、林業・木材産業界のみならずさまざまな方が集まった事により、多様な意見が出され、我々もこれまで以上に飛騨の森林について考える機会となりました。

多くの人が植えて育ててきた人工林を今後どのように導くかはとても重要です。しかし、飛騨地域においては、広葉樹が多く、また、その広葉樹を活用しようとする数多くの木工職人・家具職人の方々が活動しているため、人工林をどうするかということと

同様に広葉樹林をどのように活用していくかが非常に重要な課題となります。

広葉樹のまちづくりと森林配置計画の取り組みは始まったばかりで、形になっていない部分も多くあります。このため、これからより一層議論を深めこの大きな課題に答えられるよう地域の関係者のみなさんと一緒に考え、取り組んでいきたいと思えます。

【飛騨農林事務所

林業普及指導員 伊藤 曜仁】